

つなごう未来へ！島原半島世界ジオパーク

ジオパークであり 続けるための取り組み

島原半島世界ジオパーク
キャラクター「ジーくん」

図 島原半島ジオパーク推進連絡協議会 ☎0957(65)5540

島原半島世界ジオパーク
キャラクター「ジーナちゃん」

世界ジオパーク再認定審査が行われました！

7月9日から11日の3日間、ユネスコが支援する組織・世界ジオパークネットワークから2人の審査員が来島し、島原半島世界ジオパークの再認定審査が行われました。世界ジオパークの再認定審査は、平成21年8月22日に同時に世界認定を受けた糸魚川、洞爺湖有珠山地域の2地域に先駆けて実施されました（国内初）。

今回の再認定審査では、世界ジオパーク認定時に指摘された事柄への対応状況や、島原半島ジオパークが世界認定以降に実施してきた事業の実績を審査員に説明しました。また、ジオパークの認定ガイドの説明を聞きながら、ジオサイトの整備状況を視察しました。

世界ジオパークネットワークによる再認定審査の結果は、9月7日～13日に、韓国の済州島世界ジオパークで行われる「アジア太平洋ジオパークネットワーク国際シンポジウム」の場で発表される予定です。



審査初日に行われた審査員との質疑応答の様様



市内のジオサイトを視察する審査員
（説明するのはジオパークの認定ガイド）



ジオサイトに設置された解説板を視察する審査員



審査の最後に行われた講評会の様子

復興への



「東日本大震災災害派遣レポート」

Vol.15

南島原市災害派遣職員 林 田 昭 義



急ピッチで進められる発掘作業

東日本大震災の津波で壊滅的被害を受けた志津川地区の集団移転先は、志津川中央・東・西地区の3地区に計画され、防災集団移転事業により415世帯、災害公営住宅へは681世帯が移転するよう計画されています。しかし、中央地区周辺は、昭和初期に縄文時代の石器や土器などの埋蔵文化財が大量に確認されており、以前の調査では中世戦国時代の館跡などの遺跡があることが分かっている地区でもあるため、造成前に発掘調査が必要となりました。通常、ヘクトール規模の発掘調査には、数年を要しますが、復興事業である高台造成を大幅に遅れさせないため、町内外から集まった50人の作業員の皆さんで急ピッチに調査が進められています。

当初は、中央地区での造成事業自体危ぶまれていましたが、現在では、当初の計画から1年ほどの遅れで着工を見込んでいます。発掘作業は4月から始められ、雨の日以外は夏の炎天下でも冬の寒い時期でも続けられ、慎重にかつ迅速に掘り下げていくとのこと。被災された住民の皆さんが1日でも早く仮設住宅から、「ついのすみか」である新しい住居へ移転するため、時間は要しますが、発掘調査は必要な手順として、造成事業の早期着工を目指し現在も進められています。

最後に南三陸町にはさまざまな時代の遺跡があり、中でも中生代三疊紀前期（2億2千万年前）の魚竜「ウタツサウルス」の化石が発見されており、歌津地区館は、学術的に非常に価値のある化石が、発掘されたそのまゝの姿で現在も露出しています。

宮城県知事から感謝状

宮城県の村井知事から、感謝状をいただきました。本市では、東日本大震災の被災地、特に南三陸町に重点的な支援を行っています。

そして、平成23年6月から現在も南三陸町へ職員派遣を行っており、今回、派遣に対する感謝状をいただきました。

被災地の復旧、復興はまだまだ始まったばかりです。義援金や人的支援など、息の長い支援を続けていくことが大切です。

復興への「絆」を胸に、これからも皆さんの温かいご支援をよろしくお願いします。

